

ペットにかかる年間支出、この不況下でも20%増加

- ペットの「健康と食」に対する意識が一層高まる
- 犬の「病気やケガの治療費」は38%増加
- 犬猫とも「フード・おやつ」の費用は34%増加

～アニコム「ペットの年間費用」アンケート調査より～

アニコム損害保険株式会社（代表取締役社長：小森伸昭「以下アニコム損保」）では、グループ会社のアニコム パフェ株式会社の協力のもと、全国のモニターを対象に「ペットにかかる年間費用について」のアンケート調査を行いました。

その結果、2008年の調査と比較して、犬猫ともに年間支出が20%以上も増加していることがわかりました。1世帯あたりの消費支出が4.6%の減少（※）といわれる不況の中でも、ペットのためには費用を惜しまない飼い主の意識が伺えます。

特に「病気やケガの治療費」や「フード・おやつ」に関する費用が大幅に増加しており、ペットの「健康と食」に対する意識が、より一層高まっていると思われます。

（※）総務省統計局 家計調査報告 平成20年12月分速報より1世帯あたりの消費支出 前年同月比

■ 健康に関連する費用の上昇

「病気やケガの治療費」「ワクチン・健康診断等の予防費」「シャンプー・カット・トリミング費」など、健康に関連する費用について上昇傾向が見られます。これは、ペットに対する家族意識が高まるなかで、ペットの高齢化が進み、生活習慣病（糖尿病・肥満など）の増加が話題になるなど、飼い主がこれまで見落としがちだったペットの健康状態に配慮し、ペットの健康管理に対する意識が高まっているものと思われます。

治療費に関しては、年間5万円を超える出費をした飼い主の割合が、全体の10%（08年）から18%（09年）に増加しており、動物医療の高度化にともなう、治療費の高額化が進んでいるものと考えられます。

■ 食に関連する費用の上昇

フードは、昨今のペットフードの安全性問題を背景に、ペットの食事に対しても価格に関わらず安全性の高いものを選ぶ飼い主が増加したものと思われます。また、栄養価を訴求するペットフードや健康志向を追求したプレミアムフードへの移行が進み、さらには、犬種に特化したフードが販売されるなど、飼育するペットにより適したフードを選択する傾向が進んでいるものと思われます。

<調査結果>

ペットにかかる年間平均支出（犬・猫別）

（単位：円）

項 目	犬		猫	
	2009 年	2008 年	2009 年	2008 年
フード・おやつ	64,280 (33.8)	48,046	42,258 (35.9)	31,092
病気やケガの治療費	38,844 (38.2)	28,113	22,818 (△27.5)	31,490
シャンプー・カット・トリミング	33,173 (9.0)	30,420	5,371 (273.8)	1,437
ワクチン・健康診断等の予防費	28,352 (3.9)	27,284	11,903 (63.8)	7,266
ペット保険料	27,617 (31.1)	21,060	22,292 (84.0)	12,116
日用品	17,746 (28.8)	13,779	18,148 (39.4)	13,021
洋服	11,774 (△19.4)	14,601	1,461 (76.7)	827
ペットホテル・ペットシッター	11,735 (60.7)	7,301	2,600 (△68.8)	8,346
しつけ・トレーニング料	7,698 (11.1)	6,927	—	—
首輪・リード	5,394 (△16.4)	6,452	2,090 (90.3)	1,098
ドッグラン	2,303 (△5.3)	2,433	—	—
合 計	248,916 (20.6)	206,416	128,941 (20.9)	106,693

（カッコ内は対前年増減率）

<調査概要>

【調査方法】

インターネット上で全国のモニターを対象にアンケートを実施

【実施期間】

2009 年調査

2009 年 1 月 16 日～1 月 25 日（有効回答数 216）

2008 年調査

2008 年 2 月 29 日～3 月 5 日（有効回答数 353）